

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	リーディング4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。CD、DVD、録音素材等随時使用。				
担当教員情報					
担当教員	早川	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的					
プロの現場では読譜が出来るだけでは仕事の半分も適わず、その他たくさんの「現場必須項目」がある事を理解する。この授業では、一般的な読譜に加えプロならではの譜面の書き方はもちろんのこと、現場では当たり前前の壁コンセントの極性とといった簡単なことから、アース（グラウンド）、ヘルツ、位相、信号の波形とノイズの関係（バランス、アンバランス）、各楽器の特徴及び簡単な扱い方、アマチュアの方が「やっぱりプロはすごい！」と憧れるような良い音の作り方までの習得を目的とする。					
到達目標					
個人的にいくら練習を積んで各パートのプレイテクニックが高くなろうとも、「プロ」の現場ではそれ以外に知っていなければならないこと、出来ていなければならないことが山ほどある。ただ弾けるだけでは不十分なので、次のような事を習得する。1、読譜が出来る。2、ライブステージにおいて必要な電気知識を習得する事ができる。3、音は空気振動なので振動に関する周波数（ヘルツ）等、2年次なので応用知識を習得する事ができる。					
教育方法等					
授業概要	譜面が読めて普通にプレイ出来る…に留まらず、昨今のライブ、コンサート等で不可欠な「電気」についての基礎知識…家庭用コンセント1口には約100V/15Aという電気が来ていて…という初歩的なことから、これはあくまで「約100V」であって、周りの電気使用状況によってそれは変化し、場合によってはノイズというものを生み出す汚れを生じる…等を知り、お客さんがより満足して帰っていただけるように、一つでも邪魔な要素は排除し良い要素に変えていく感性を専門的に深く身につけていく。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端技術等について概説するので、自分でも情報を収集し、知識の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期の復習	前期内容を復習し見落としがないかチェックしより理解を深める。			
2回	テンション（2）	オルタードテンション。ベースアンプの録音の仕方を理解する。			
3回	テンション（3）	コードトーンへの解決。ボーカルに合ったEQ、コンプの掛け方を理解する。			
4回	サクソ用譜面の書き方（1）	B♭管用譜面の書き方。ドラムに合ったEQ、コンプの掛け方を理解する。			
5回	サクソ用譜面の書き方（2）	E♭管用譜面の書き方。ギターアンプに合ったEQ、コンプの掛け方を理解する。			
6回	変拍子	いろんな変拍子の種類とその譜面の書き方。ベースアンプに合ったEQ、コンプの掛け方を理解する。			
7回	五度圏	五度圏。ギターアンプのアンサンブル内での音の作り方を理解する。			
8回	ギター用タブ譜	ギター用タブ譜。ベースアンプのアンサンブル内での音の作り方を理解する。			
9回	ベース用タブ譜	ベース用タブ譜。各パートが混ざり合った際に邪魔し合う周波数帯域を理解する。			
10回	ドラム譜	ドラム譜。最初からエフェクターが掛かったキーボードの音色とギター、ベースの前後感を理解する。			
11回	リビート記号（1）	D.S.1、D.S.2、セーニョ1、セーニョ2。空間系の上手な掛け方を理解する。（1）			
12回	リビート記号（2）	toコード1、toコード2、コード1、コード2。空間系の上手な掛け方を理解する。（2）			
13回	リビート記号（3）	大括弧リビート記号。3、4括弧。録音素材を使ってこれまでの全内容を体験、理解する。（1）			
14回	リビート記号（4）	Repeat X Time、bis、ter、quater。録音素材を使ってこれまでの全内容を体験、理解する。（2）			
15回	まとめ	全体のまとめ			